

コーパスに基づく日中同形動詞の コロケーション及びその構文的特徴 — 「説明/解釈」「说明/解释」を例に—

A Corpus-based Study of the Collocation and Constructional Features of
Sino-Japanese Verbs in Japanese and Chinese:
The Cases of *Setsumei* (“説明”) / *Kaishaku* (“解釈”) and *Shuoming* (“说明”) / *Jieshi* (“解释”)

朱 薇娜[†]
Weina Zhu[†]

Abstract In this paper, I will focus on four Sino-Japanese verbs, that is, *setsumei* (“説明”) and *kaishaku* (“解釈”) in Japanese and their counterparts *shuoming* (“说明”) and *jieshi* (“解释”) in Chinese. I will examine the collocational similarities and differences of these four words and their syntactic features. These four verbs are classified as “overlap” verbs, meaning that they partially overlap in meaning. In addition, this paper discusses from the perspective of frame semantics the possible reasons that lead to the semantic differences between *setsumei* (“説明”) and *kaishaku* (“解釈”) in Japanese and *shuoming* (“说明”) and *jieshi* (“解释”) in Chinese.

1. はじめに

本稿では、日中同形動詞の「説明」¹⁾「说明」、「解釈」「解释」を研究対象として、この4語のコロケーションにおける共通点と相違点、及び構文的特徴を見る。「説明」と「说明」、「解釈」と「解释」は、Overlap類、つまり意味が一部重なるという類に分類されている（張淑栄 1987）。本稿では、フレーム意味論の観点に基づき、日中同形動詞の意味の差異を生起させる要因を探る。

本稿の構成は以下の通りである。まず第2節では、各語の辞書における意味記述、用例、コロケーション情報及び構文を確認する。次に第3節では、コーパス調査の手法を説明する。第4節では、コーパス調査の結果を示し、「説明」「解釈」「说明」「解释」の共起語の共通点及び相違点をまとめる。続く第5節では、フレーム意味論に基づき、分析を行う。最後に第6節では、以上の考察から得られた結論を述べる。

2. 先行研究

[†] 愛知工業大学 基礎教育センター（豊田市）

2・1 辞書の意味記述及びそのまとめ

辞書の記述を下表1、2にまとめる。

表1 「説明」と「说明」

	辞書	意味記述及び用例
説明	『大辞林』 (第四版)	①よくわかるように述べること。ときあかして教えること。 「使用法を説明する」 「事情の説明を求める」 〔近世の中国語からの借用語。類義の語に「解説」があるが、「解説」は既知の事柄について、細部に至るまでよくわかるように述べる意を表す。それに対して「説明」は未知の事柄について相手にわかるように述べる意を表す〕 ②【哲】(略) (p.1526)
	『デジタル大辞泉』	(スル)ある事柄が、よくわかるように述べること。 「説明を求める」 「科学では説明のつかない現象」 「事情を説明する」

	《現代漢語詞典》(第七版)	<p>1 ㊦ 解释明白: 说明原因 说明问题</p> <p>2 名 解释意义的话: 图片下边附有说明。</p> <p>3 ㊦ 证明: 事实充分说明这种做法是正确的。 (p. 1233) (訳: 1 (動詞) よく分かるように解釈する。「原因を説明する」「問題を説明する」 2 (名詞) 意味を解釈する文言。「図の下に説明が付している」 3 (動詞) 証明する。「事實は、このアプローチが正しいことを十分に示している。)」</p>
説明	『中日辞典』(第3版)	<p>1 説明する。 説明电脑的用法。コンピュータの使い方を説明する。 你把理由说明一下。わけを話して聞かせてくれ。 他的话很说明问题。彼の話はとても問題点を突いている。</p> <p>2 説明。解説。 在图表上附上说明。図表に説明を付けておく。 加几句说明。ひと言二言説明を加える。</p> <p>3 (事實や事柄が) 証明している。物語っている。 他的表现说明他是可以信任的。彼の行いは彼が信頼できる人物であることを証明している。 这件事说明他的为人。このことから彼の人となり分かる。(p. 1466)</p>

	『中日辞典』(第3版)	<p>1 解釈する。説明する。 老师正在解释每个生词的意义。先生がそれぞれの新出単語の意味を説明している。 把当前政策向群众解释清除。 当面の政策を大衆にはっきりと説明する。</p> <p>2 釈明する。言い訳する。 解释误会。誤解を釈明する。 越描越黑, 不要再(做)解释了。ますますぼろが出るばかりだから、言いわけもいいかげんにやめなさい。(p. 780)</p>
--	-------------	--

辞書の意味記述を次のように整理する。

- ①「説明」の意味は、「よく分かるように述べる」であり、哲学の分野における意味を省くと、単義語であると考えられる。一方、「说明」の意味は、名詞としての意味を省いても、「よく分かるように述べる」と「証明している・物語っている」の2つを持っており、多義語であると考えられる。また、「説明」と「说明」は、「よく分かるように述べる」という意味を持っているところで共通している。
- ②「解釈」の意味は、大まかに「説明する」と「理解する」の2つを持っており、多義語であると考えられる。一方、辞書によって意味の記述が異なるが、「解釋」は、「説明する」や、「解明する」、「釈明する」といった意味を持ち、多義語であると考えられる。

辞書に基づくコロケーション情報を下記のようにまとめる。

- ①「説明」と共起する対格名詞(ヲ格名詞に対応する)として、「使用法」「事情」が挙げられている。「说明」と共起する対格名詞(目的語に対応する)として、「原因」(「原因」)、「問題」(「問題」)、「用法」(「用法」)、「理由」(「理由」)が挙げられている。
- ②「解釈」と共起する対格名詞としては、「徒然草」しか挙げられていないが、「言葉や文章の意味・内容」という意味記述からは、「言葉」「文章」「意味」「内容」といった名詞が挙げられたため、これらの名詞又はこれらが表す概念の外延にあたる名詞と共起できると考えられる。「解釋」と共起する対格名詞として、「词句」(「語句」)、「误会」(「誤解」)、「意义」(「意義」)、「政策」(「政策」)が挙げられている。

2・2 構文的な特徴に関わる先行研究

本節では「説明」「解釈」「说明」「解釋」の構文的特徴に言及した先行研究を見る。小泉他(1989)では、「説明」「解釈」の文型について詳しく述べられている。次は関連する部分の抜粋である。

- ・説明
ある物事について、相手にわかりやすいように伝える。

表2 「解釈」と「解釋」

	辞書	意味記述及び用例
解釈	『大辞林』(第四版)	<p>1 語句や物事などの意味・内容を理解し、説明すること。解き明かすこと。また、その説明。「正しく解釈する」</p> <p>2 物事や行為などを判断し理解すること。「善意に解釈する」(p. 443)</p>
	『デジタル大辞泉』	<p>1 言葉や文章の意味・内容を解きほぐして明らかにすること。また、その説明。「徒然草を解釈する」「英文解釈」</p> <p>2 物事や人の言動などについて、自分なりに考え理解すること。「善意に解釈する」</p>
解釋	《現代漢語詞典》(第七版)	<p>1 分析阐明: 经过无数次的研究和试验, 这种自然现象才得到科学的解释。</p> <p>2 说明含义、原因、理由等: 解释词句 解释误会 (p. 1233) (訳: 1 分析すること、解明すること。「数え切れないほどの研究や実験を経て、この自然現象は科学的に解明されてきた。」「語句を解釈する」「誤解を解く」)</p>

コーパスに基づく日中同形動詞のコロケーション及びその構文的特徴

—「説明/解釈」「说明/解释」を例に—

文型 a

[人・組織] {が/は/から} [人・組織] に [物・事] {を/について} 説明する

例 弘は妻に事情を説明した

文型 b

[人・組織] {が/は/から} [人・組織] に 文 を説明する

例 政府はなぜ増税しなければならないかを国民に説明した

文型 c

[人・組織] {が/は/から} [人・組織] に 文 と説明する

例 会社は新卒者たちに不況のために多くは採用できないと説明した

文型 d

[人・組織] {が/は/から} [人・組織] に [物・事] {を/について} 述語 と説明する

例 科学者は幽霊現象を錯覚だと説明する

(pp. 269-270 から抜粋)

・解釈

意味をとらえ、理解する。身近なもの・よく知っているものでとらえ直して明らかにする。

文型 a

[人] {が/は} [記号・言葉・言語] を ([記号・言葉・言語] に) 解釈する

例 先生は古文を現代語に解釈した

文型 b

[人] {が/は} [事・活動] を [事] と解釈する

例 私は彼の言動を成熟拒否症の現れと解釈している

文型 c

[人] {が/は} 文 と解釈する

例 その評論家は今の風潮が世紀末特有の現象だと解釈していた

文型 d

[人] {が/は} [事・言葉] を 副詞的要素 と解釈する

例 彼はいつも物事を悪い方に解釈する

(p. 113 から抜粋)

上記の「説明」の4つの構文は、いずれも三項動詞構文であり、また、主体も相手も、人間又は人間の集合体である組織である。4つの構文の差は、説明の対象が物・事を表す名詞句なのか文なのか、また説明の対象のみに言及するか説明の結果に言及するかといったところにある。

一方、上記の「解釈」の4つの構文は、取りうる項においてそれぞれ異なるが、いずれも相手を表す与格がとれないところで「説明」と一線を画す。

“説明”、“解釈”の構文に言及した先行研究は、管見

の限り見当たらないが、いずれも言語活動動詞であるため、次の例(1ab)が示すように、「説明」と同様、三項動詞構文の形をとることができる。また、次の例(2ab)が示すように、“解釋”は、“把～解釋成～”(「～を～と解釋する」)、つまり“把”構文を用いて「解釈」と同じように、解釈の結果を示す構文の形を取りうる。

- (1) a. 老师向学生说明考试时的注意事项。
(先生は学生に試験中の注意事項を説明する。)
- b. 学生向老师解释迟到的原因。
(生徒が先生に遅刻の理由を説明する。)
- (2) a. 不要把他人的善意解释成别有用心。
(他人の善意を下心があると解釋してはいけない。)
- b. 把这句古文解释成现代文。
(古文を現代文に訳しなさい。)

2・3 援用するフレーム意味論について

本稿では、分析の道具立てとしてフレーム意味論を援用する。フレームは、「ある概念を理解するのに必要となるような背景的知識構造と定義され、語はフレームを喚起し、その意味はフレームを背景にして初めて理解される」という立場をとる(野村 2013 p. 317)。具体的には、英語の land と ground は同一な指示対象を指しうるが、前者は sea、後者は air のように喚起するフレームが異なるため、異なる文脈に用いられる(Croft & Cruse (2004: Ch. 2))。また、フレーム自体にも構成要素を持つ性質がある。例えば、「商取引」のフレームには、SELLER、BUYER、GOODS、MONEY というフレームの構成要素が存在するとされている(Fillmore 1982)。

本稿では、フレーム構成要素を比較することにより、統一した視点に基づき日中同形類義動詞の意味の差を示すことを狙う。

3. コーパス調査

2.1 節と 2.2 節では、先行研究における「説明」「解釈」「说明」「解释」の意味記述及び構文的特徴を確認した。コロケーション情報を網羅的に集めるために、本稿では、コーパスを用いて「説明」「解釈」「说明」「解释」の共起語を調査する。また、対格名詞は、他動詞の意味を確定する重要な要素である。「説明」「解釈」「说明」「解释」の対象となりうる名詞はどのようなものがあるか、互いにどのような共通点及び相違点を持っているかを見るため、対格名詞の情報を主に抽出し分析を行う。

以下、コーパス調査の手法について説明する。

日本語の場合、NINJAL-LWP for TWC²⁾(以下 NLT と略

す) というコーパス検索ツールを利用し、「説明」「解釈」と共起する対格名詞を検索した。NLT が検索するコーパスは、11 億語規模の筑波ウェブコーパスであり、日本語のウェブサイトから収集し構築されたコーパスである。NLT の検索欄にそれぞれ「説明する」、「解釈する」を入力すれば、この 2 語と共起するヲ格名詞やガ格名詞等のコロケーション情報が一覧表示される。

「説明」「解釈」と共起するヲ格名詞の異なり語数は、それぞれ 2948 語、961 語あり、「これ」「それ」「【一般】」等のような指し示す内容が文脈により判断される名詞を除去し、上位語 100 語³⁾ を選び出した。

中国語の場合、北京語言大学が開発した BCC 現代中国語コーパス (以下 BCC と略す) を利用し、「説明」「解釋」と共起する目的語 (対格に対応するもの) を検索した。NLT と異なり、BCC の検索結果は、実例の一覧表示である。BCC には共起語の統計機能があるが、複雑な実例であるほど誤抽出が多く、精度が高くないため、手作業による選別が必要となる。本稿では、次の手順を踏まえて「説明」「解釋」と共起する対格名詞を抽出した。

- ① 新聞記事 (20 億語) というサブコーパスを選び、検索欄に“説明/v*N”“解釋/v*N”という検索式をそれぞれ入れて検索にかける。
- ② 検索結果に対して統計という機能を使って共起語リストを一覧表示させる。
- ③ 統計による誤抽出が多いため、真の対格名詞であるかどうかを、上位語から 1 語ずつその例文を確認し判断する。例えば、「説明」の対格名詞のランキング 2 位を占める名詞は、「人民」であるが、実例を確認したところ、「展覧会の勝利開幕, 説明一切破壊中日两国人民团结的人最后必将彻底失败。」(「この展覧会のオープニングの成功は、日中両国の国民の団結力を損なわせようとするすべての者がいずれ完全に失敗するというを示している。)」のような誤抽出の例が大多数を占めているため、「人民」を検索結果から除外する。
- ④ 以上の③の手作業を繰り返し行い、誤抽出の名詞を全て取り除き、共起語を選定する。

4. 対格名詞の結果

本節では、コーパス調査の結果に基づき、「説明」「解釈」「説明」「解釋」とよく共起する対格名詞の特徴を見る。さらに、対照の便宜上、対格名詞の意味特徴により、分類する。その際に、国立国語研究所 (2004) が編纂した『分類語彙表 増補改訂版』を参照するのに加え、多義的な名詞に対して、コーパスの用例の意味も判断の基準とする。

4・1 「説明」の対格名詞

「説明」の対格名詞の上位 3 語は、「理由」(1714 例)「方法」(1706 例)「内容」(1438 例)となる。上位 100 語の意味特徴により、次のような[1]~[15]の 15 グループに分類できる。

- [1] 事象・状況・現実グループ [16 語]
{事情/現象/状況/病状/現実/事実 etc.}
- [2] 因果・目的・根拠・関係グループ [10 語]
{原因/結果/目的/根拠/効果/関係 etc.}
- [3] 過程・手順グループ [6 語]
{過程/プロセス/経緯/経過/流れ/手順 etc.}
- [4] 全体・部分・類・例グループ [5 語]
{全て/部分/種類/例}
- [5] 方法・操作グループ [9 語]
{方法/仕方/手法/[治療・対処]法/操作 etc.}
- [6] 原則・計画・案グループ [7 語]
{ルール/ /計画/[具体・修正]案 etc.}
- [7] 内容・構造・機能グループ [8 語]
{内容/中身/構造/仕組み/機能/役割 etc.}
- [8] 意味・問題・趣旨グループ [10 語]
{意味/意義/問題/概要/趣旨/詳細 etc.}
- [9] 性質・特徴グループ [9 語]
{[重要・必要]性/メリット/ポイント/特徴 etc.}
- [10] 理論・学問・知識グループ [3 語]
{理論/歴史/知識}
- [11] 行動・取り組み・動き・変化グループ [6 語]
{行動/活動/取り組み/仕事/動き/変化}
- [12] 言語的グループ [4 語]
{言葉/話/情報/資料}
- [13] 心的グループ [4 語]
{考え/考え方/意図/立場}
- [14] 世界グループ [1 語]
{世界}
- [15] 商品・サービスグループ [2 語]
{商品/サービス}

4・2 「解釈」の対格名詞

「解釈」の対格名詞の上位 3 語は、「意味」(135 例)、「言葉」(113 例)、「結果」(110 例)となる。上位 100 語の意味特徴により、次のような[16]~[31]の 16 グループに分類できる。

- [16] 事象・状況・現実グループ (10 語)
{現象/事象/状況/状態/現実/事実 etc.}
- [17] 因果・関係グループ (4 語)

コーパスに基づく日中同形動詞のコロケーション及びその構文的特徴
— 「説明/解釈」「说明/解释」を例に—

- {原因/結果/関係/違い etc.}
- [18] 言語的[文字・作品]グループ (23 語)
{文字/聖書/テキスト/文章/物語/文 etc.}
- [19] 言語的[発言・情報]グループ (14 語)
{発言/話/表現/教え/情報/メッセージ etc.}
- [20] 意味・問題グループ (6 語)
{意味/意義/概念/定義/問題/質問}
- [21] 原則・法律・条文・基準グループ (8 語)
{原則/ルール/法律/法令/条文/基準 etc.}
- [22] 行動・体験・反応グループ (6 語)
{行動/行為/動き/体験/経験/反応 etc.}
- [23] 内容・機能グループ (2 語)
{内容/機能}
- [24] 性質グループ (2 語)
{[可能・信頼]性/[大き・難解]さ}
- [25] 理論・学問グループ (3 語)
{理論/命題/歴史}
- [26] 全体・部分・範囲グループ (4 語)
{部分/全て/全体/範囲}
- [27] 心的グループ (3 語)
{気持ち/思想/考え方}
- [28] 数・値グループ (2 語)
{数字/[測定・検査]値}
- [29] 世界・社会グループ (2 語)
{世界/社会}
- [30] 自他グループ (2 語)
{自己/自体}
- [31] 人生・過去・夢グループ (2 語)
{人生/過去/夢}

4・3 “说明”の対格名詞

“说明”の対格名詞の上位3語は、“問題”(1105例)⁴⁾、“情况”(508例)、“关系”(418例)となる。上位50語⁵⁾の意味特徴により、次のような[32]～[45]の14グループに分類できる。

- [32] 事象・状況・現実グループ (9 語)
{現象/情况/局势/状況/事实/真相 etc.}
- [33] 因果・関係グループ (7 語)
{原因/理由/結果/目的/动机/关系 etc.}
- [34] 言語的[発言・情報]グループ (1 語)
{意見}
- [35] 意味・問題グループ (3 語)
{意思/意义/问题}
- [36] 原則・基準グループ (4 語)

- {原則/方針/規定/道理}
- [37] 行動・体験グループ (2 語)
{任务/体验}
- [38] 内容・機能グループ (3 語)
{内容/作用/用途}
- [39] 性質・特徴グループ (7 語)
{[重要・必要]性/性质/特点/本质 etc.}
- [40] 過程グループ (2 語)
{过程/经过}
- [41] 方法グループ (1 語)
{方法}
- [42] 理論・学問グループ (1 語)
{思想}
- [43] 規模グループ (1 語)
{規模}
- [44] 心的グループ (9 語)
{态度/观点/立场/心情/来意/决心 etc.}
- [45] 実力・潜在力・成績グループ (4 語)
{实力/潜力/成绩/进步}

4・4 “解释”の対格名詞

「解释」の対格名詞の上位3語は、“問題”(240例)、“政策”(238例)、“原因”(165例)となる。上位100語の意味特徴により、次のような[46]～[61]の16グループに分類できる。

- [46] 事象・状況・現実グループ (9 語)
{事情/事件/现象/情况/形势/事实 etc.}
- [47] 因果・目的・関係グループ (11 語)
{原因/理由/目的/动机/关系/区别 etc.}
- [48] 原則・法律・条文・計画・基準グループ (22 語)
{原則/政策/计划/条约/条文/标准 etc.}
- [49] 言語的[文字・作品]グループ (7 語)
{字/报告/名词/词/作品/程序/文件}
- [50] 言語的[発言・声明]グループ (6 語)
{建议/意见/决议/报告/声明/宣言}
- [51] 意味・問題グループ (7 語)
{意思/意义/概念/含义/原意/寓意/问题}
- [52] 内容・構造・機能グループ (5 語)
{内容/机制/机理/功能/作用}
- [53] 理論・主義・学問・知識グループ (9 語)
{理论/主义/知识/历史/哲学/科学 etc.}
- [54] 性質・特徴グループ (6 語)
{[重要・必要]性/好处/性质/特点/特征/特性}
- [55] 心的グループ (6 語)

- {精神/態度/決定/看法/观点/立場}
- [56] 行動・体験・任務グループ (4 語)
{行為/運動/經驗/任務}
- [57] 方法グループ (3 語)
{方法/辦法/做法 etc.}
- [58] 謎グループ (2 語)
{奧秘/之謎}
- [59] 範圍グループ (1 語)
{範圍}
- [60] 世界グループ (1 語)
{世界}
- [61] 過程グループ (1 語)
{過程}

4・5 対格名詞の比較分析

まず、「説明」「解釈」「说明」「解释」の対格名詞の共通点をまとめる。次の①～⑦は、4 語に共通する対格名詞が挙げられている。なお、4 語のいずれもの上位 100 語に入っていないため、①～⑦には挙げられていないものの、「概念」「道理」をはじめとして共起可能な語はほかにもある。

- ① 〈意味・問題〉を表す語
日：{問題/意味/意義}
中：{問題/意思/意义}
- ② 〈事象・状況・現実〉を表す語
日：{現象/状況/事実}
中：{現象/情况/状況/事实}
- ③ 〈因果・関係〉を表す語
日：{原因/結果/関係}
中：{原因/結果/关系}
- ④ 〈性質〉を表す語
日：{(重要・必要)性}
中：{(重要・必要)性}
- ⑤ 〈内容・機能〉を表す語
日：{内容/機能}
中：{内容/作用}
- ⑥ 〈規定〉を表す語
日：{ルール}
中：{規定}
- ⑦ 〈心的〉を表す語
日：{考え方}
中：{看法}

次に、「説明」「解釈」「说明」「解释」の対格名詞の特徴及び相違点をまとめる。

①「説明」の場合、{(書き・使い)方/(治療・対処)方}のような〈方法・操作〉を表す語がほかの 3 語の対格名詞と比べて異なり語数が多く、特徴的である。また、

ほかの 3 語の上位対格名詞にはない〈商品・サービス〉もあるが、中国語では“说明”“解释”に対応しえず、“介绍”(「紹介する」)に対応する。

②「解釈」の場合、{(聖書/文章/作品)のような〈言語的(文字・作品)〉を表す語や、{(言葉/話/情報)のような〈言語的(発言・情報)〉を表す語がほかの 3 語の対格名詞と比べて異なり語数が多く、特徴的である。また、ほかの 3 語の上位対格名詞にはない〈人生・過去・夢〉があり、「解釈」に含まれる「理解する」の意味が反映されている。

③“说明”の場合、BCC コーパスでは“说明”の対象が文となる実例が大多数を占めており、真の対格名詞及びその頻度を確定するのはほかの 3 語よりも困難である。例えば、最上位の対格名詞の“問題”にしても、次の例(3)に示すように、問題そのものを説明するのではなく、問題の存在が証明されているという意味を表す。さらに、ほかの 3 語の上位対格名詞にはない〈実力・潜在力・成績〉があり、同様に“说明”に含まれる〈示す・証明する・物語る〉の意味が反映されている。この理由については、5.1 節で掘り下げる。

- (3) 在科学技术上落后就会被动挨打。一部中国近代史充分说明了这个问题。

(人民日报 1991 年 06 月 13 日)

(訳文：科学技術で遅れをとったら、戦わずして打ちのめされてしまう。中国の近代史は、このような問題を十分証明している。)

④「解释」の場合、{(原則/法規/制度/草案/条款)のような〈原則・法律・計画・案・条文〉を表す語がほかの 3 語の対格名詞と比べて異なり語数が多く、特徴的である。また、ほかの 3 語の上位対格名詞にはない{奧秘/之謎}のような〈謎〉を表す語があるが、日本語では「説明」「解釈」に対応しえず、慣用句となる「謎を解く」に対応する。

5. フレーム意味論に基づく分析

本節では、先行研究の成果やコーパス調査の結果を踏まえ、フレーム意味論の知見に基づき、「説明」「解釈」「说明」「解释」のコロケーションにおける差や、意味の差異を生起させる要因を探る。なお、フレームの恣意的な記述を避けるために、FrameNet⁶⁾のデータを参照した上で論じる。

5・1 「説明」と“说明”の意味・構文

本節では、「説明」と“说明”の意味・構文を見る。主格に立つものが有情物か無情物かによって、さらに次

コーパスに基づく日中同形動詞のコロケーション及びその構文的特徴
 —「説明/解釈」「说明/解释」を例に—

の3節に分けて論じる。

5・1・1 典型的な「説明」と「说明」のフレーム

第2節の辞書の意味記述からも分かるように、「説明」「说明」は、「相手に分かるように述べる」という意味において共通し、会話フレーム⁶⁾を喚起する。つまり、2人以上の会話参加者、話し手と聞き手の役割分担、会話の内容、相手に分かるようにという目的といったことが想定できる。また、「説明」「说明」の場面は、口頭のみならず書面の場合もありうるため、本稿では、「説明」「说明」のフレーム構成要素として、話し手・聞き手という言い方を用いず、情報の発信者・情報の受信者という言い方を用いる。

まず、「説明」のフレームには、情報の発信者（以下では「発信者」と言う）、情報の受信者（以下では「受信者」と言う）、発信者が取り扱う対象、すなわち情報（以下では「情報」と言う）が含まれている。また発信者は、情報を再構築したり再記号化したりして何らかの方法で情報を加工するという認知作業を通して、加工後の情報を受信者に伝達するため、発信者により加工された情報（以下では「発信物」と言う）も含まれている。以上のフレーム構成要素を下図1に図式化する。

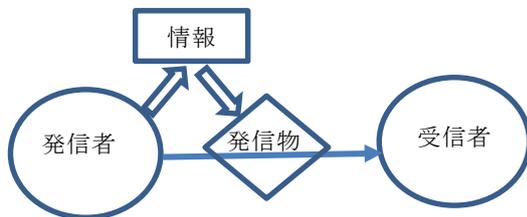


図1 「説明」のフレーム

第2.2節の先行研究の小泉(1989)で挙げられた「説明」の各構文に以上のフレーム構成要素を当てはめると以下の要素が焦点化されていると考えることができる。

文型 a, b

発信者: [人・組織] {が/は/から}
 情報 : [物・事] {を/について}、文かを
 受信者: [人・組織] に

文型 c

発信者: [人・組織] {が/は/から}
 発信物: 文と
 受信者: [人・組織] に

文型 d

発信者: [人・組織] {が/は/から}

情報 : [物・事] {を/について}

発信物: 述語と

受信者: [人・組織] に

次に、「説明」の構文に基づき、「说明」の構文を考察する。「説明」の4つの構文を「说明」の構文に置き換えると、次の(4abcd)のようになる。

- (4) a. 弘向妻子说明了情况。
 (弘は妻に事情を説明した)
 (「説明」の文型 a の例文再掲)
- b. 政府向国民说明了为什么必须加税。
 (政府はなぜ増税しなければならないかを国民に説明した)
 (「説明」の文型 b の例文再掲)
- c. ??公司向新毕业的人说明了因为经济不景气, 所以不能录用很多人。
 c'. 公司向新毕业的人说明了因为经济不景气, 所以不能录用很多人这一情况。
 c''. 公司向新毕业的人说明了 {, / _} 因为经济不景气, 所以不能录用很多人。
 (会社は新卒者たちに不況のために多くは採用できないと説明した)
 (「説明」の文型 c の例文再掲)
- d. ??科学家将鬼魂现象说明为一种幻觉。
 d'. 科学家将鬼魂现象解释为一种幻觉。
 (科学者は幽霊現象を錯覚だと説明する)
 (「説明」の文型 d の例文再掲)

例(4ab)では、「说明」は、「説明」と対応関係を成しているが、「説明」の例文を直訳した「说明」の文である例(4cd)は、適格性を欠いている。「说明」の対象が疑問文以外の文である場合⁷⁾、「说明」の目的語の位置にそのまま置くと容認度が下がり、例(4c'c'')に示すように、「这一情况」(「という事情」といった表現で「说明」の内容を一括りにした名詞句にしたり、「说明」の後に“,”又は“:”をつけて引用節にしたりすると容認されやすくなる。また、例(4d)に示すように、「说明」の文では“把”構文を用いて情報と加工された情報(発信物)を一文に取り込むと、容認されにくくなる。中国語では、この場合、「说明」を用いず、「解释」を用いて表現する。このように、情報を加工するという認知作業が「说明」のフレームの背後に潜んではいるが、言語化する際に、一括りにした発信物として表現される。

以上の考察により、[人・組織]のような能動的な主体

が主格に立つ“説明”のフレームは、次のような構成要素を設定し、下図 2 に図式化する。

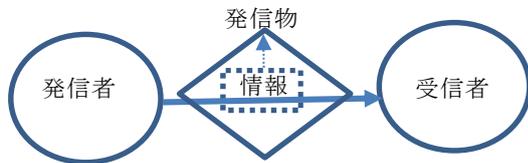


図 2 “説明”のフレーム

本節では、フレーム意味論に基づき、人間主体を主格にとる場合の「説明」と“説明”の構文を見た。次節から、無意志主体を主格にとる場合の「説明」と“説明”のそれぞれの特徴的な構文を見る。

5・1・2 情報の担い手を主格にとる「説明」

「説明」の主体になるものは、意図性・意志性をもつ人間が一般的であるが、NLT では次の例 (5ab) のような、有生性を有さない、情報の担い手のようなものがある。この場合、中国語では、対応する訳文 (6ab) (7ab) ⁹⁾ に示すように“説明”よりも“紹介”(「紹介」)のほうが容認されやすい。

- (5) a. 元資料は金の保有量別に上位 15 の国・組織についてスライドショーにて説明しているので、まずは保有量そのものをグラフ化する。(NLT)
 b. 入れ物ではなく、中身が一番重要です。残念ながら殆どのサイトは、商品やサービス内容を一生懸命に説明します。(NLT)
- (6) a. ??資料説明了前 15 名国家和组织。
 b. 資料介绍了前 15 名国家和组织。
- (7) a. ??网站说明了商品和服务内容。
 b. 网站介绍了商品和服务内容。

「説明」の場合、{本/資料/雑誌/文章/サイト/ホームページ etc.} のような情報を載せる書籍類のものやデータが保存されている電子媒体は、いずれも人間主体の作成物であり、制作者と産物というメトニミー的な関係を持っており、メトニミーに基づき (5ab) のような用法が成立すると考えられる。

一方、中国語では、メトニミーに基づいた用法を成立させるには、“説明”ではなく、“紹介”(「紹介する」)を用いる。その理由として、次の 2 点の可能性が考えられる。1 点目としては、{書/資料/雑誌/文章/网站/主页 etc.} (「{本/資料/雑誌/文章/サイト/ホームページ etc.}」)

のような情報の担い手は、人間主体のように表現を換言したり情報を再構築したり再記号化したりする、いわゆる情報を加工する能動的な働きかけができず、情報をそのまま提示することにとどまる。このような意味を表す場合、中国語では“介绍”が定着しているため、“説明”のメトニミーによる意味拡張が制限されていると考えられる。2 点目としては、次節では詳しく述べるが、“説明”には 2 つの事象の推論関係を表す最も優位に立つ構文がある。主格に無情物が立つと、この優位性が高い構文の意味として解釈されやすいのである。

5・1・3 2つの事象の推論関係を表す“説明”

第 4.5 節の例 (3) や次の例 (8) が示すように、“説明”は、2 つの事象を関連付けて、2 つの事象の関係、主に推論的關係を示し、(示す・証明する・物語る)の意味を表し得る。図 2 に示す“説明”のフレームに基づいて考えると、この構文では、発信者も受信者も焦点化されず、情報と情報に基づいた推論のみが焦点化されている。また、BCC では、例 (3) や例 (8) のような実例が大多数を占めており、論理的に事柄を述べることを求められるといった新聞記事コーパスの特徴に帰結できると考えられる。

- (8) 造成这一事故虽有多种原因, 但与电扇质量太差无关。这件事说明, 有些不合格产品, 不能以“处理品”随便出售, 尤其是家用电器、食品等, ……
 (人民日报 1985 年 8 月 5 日)

(訳文: この事故の原因はいろいろあるが、扇風機の質の悪さとは無関係ではありません。今回の事故は、特に家電製品や食品などの規格外品が「訳あり商品」として気軽に販売できないことを示している。)

この場合、動詞の命令形(説明しろ)、意向形(説明しよう)にそぐわないことから、“説明”は働きかけ性がないことが分かる。また、言語化する必要がないものの、発信者の理解や認識がこの意味を表す“説明”のフレームの背景で活性化する。この点は、例 (3) (8) に基づいた次の作例 (9ab) が示すように、“通过～, 我们可以 {得知/认识到} ～”(「～を通じて、～ということが {教えられる/認識できる}」) といった表現に換言できることから裏付けられている。

- (9) a. 通过一部中国近代史, 我们得知了在科学技术上落后就会被动挨打。
 b. 通过这件事, 我们可以认识到, 有些不合格产品, 不能以“处理品”随便出售, 尤其是家用电器

コーパスに基づく日中同形動詞のコロケーション及びその構文的特徴
 —「説明/解釈」「说明/解释」を例に—

器、食品等。

5・2 「解釈」と「解釋」の意味・構文

本節では、「解釈」と「解釋」の意味・構文を見る。第2.2節で述べたように、「解釋」は、「解釈」と同様に“把”構文を用いて解釈の結果を示す構文の形を取ることができれば、「説明」と同様に三項動詞構文の形を取ることができる。次にこの2つの構文に分けて論じる。

5・2・1 「解釈」「解釋」に共通したフレーム

第2節の辞書の意味記述からも分かるように、「解釈」「解釋」は、人間主体が語句や物事、現象等の意味・内容を分析し、理解することを含んでいる点において共通している。本稿では、このような人間主体を概念化者と呼ぶ。「解釈」「解釋」を行う過程においては、概念化者が対象、いわゆる情報に対し、再構築したり再記号化したりして何らかの方法で加工する。また、このような情報を加工する認知作業が概念化者の内部で行われるため、「解釈」「解釋」のフレーム構成要素を次の図3のように図式化する。

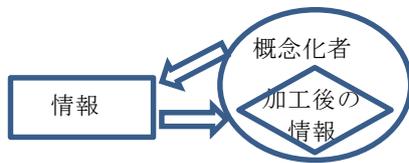


図3 「解釈」「解釋」に共通したフレーム

第2.2節の先行研究の小泉（1989）で挙げられた「解釈」の各構文に以上のフレーム構成要素を当てはめると、それぞれの文型では以下の要素が焦点化されていると考えることができる。

文型 a、b

概念化者 : [人] {が/は}
 情報 : [記号・言葉・言語] を、[事・活動] を
 加工後の情報 : [記号・言葉・言語] に、[事] と

文型 c

概念化者 : [人] {が/は}
 加工後の情報 : 文と

文型 d

概念化者 : [人] {が/は}
 情報 : [事・言葉] を
 情報の捉え方 : 副詞的要素

なお、文型 d では、ほかの文型には含まれない情報の捉え方、いわゆる概念化者の心的態度もフレームの構成要素として焦点化されている。ここで「解釈」の構文を見てから、また改めてこの構成要素について掘り下げる。

次に、「解釈」の構文に基づき、「解釋」の構文を考察する。「解釈」の4つの構文を「解釋」の構文に置き換えると、次の(10abcd)のようになる。

- (10) a. 老师把古文解释成了现代文。
 (先生は古文を現代語に解釈した)
 (「解釈」の文型 a の例文再掲)
- b. 我把他的言行解释为拒绝长大的表现。
 (私は彼の言動を成熟拒否症の現れと解釈している)
 (「解釈」の文型 b の例文再掲)
- c. ??那位评论家解释目前的趋势是世纪末的特有现象。
 c'. 那位评论家解释 {说/道} 目前的趋势是世纪末的特有现象。
 (その評論家は今の風潮が世紀末特有の現象だと解釈していた)
 (「解釈」の文型 c の例文再掲)
- d. 他总是以不好的方式解释事情。
 (彼はいつも物事を悪い方に解釈する)
 (「解釈」の文型 d の例文再掲)

(10abd) に示すように、この3つの構文においては、「解釈」と「解釋」は対応関係を成している。一方、(10cc') に示すように、加工後の情報が文である場合、“说”又は“道”(「と言って」)をつけて引用節にすると容認されやすくなる。この点においては、「解釋」は“说明”と同様に、目的語の位置に文をそのまま置くと、文全体の容認度が下がるという傾向がある。なお、(10 c') では、“说”又は“道”があるため、評論家は相手に向かって発信しているという意味解釈も可能である。「解釈」の文型 c の例文では、「評論家」という文脈設定から見れば、評論家の解釈は新聞記事やテレビなどを通じて相手に発信していると考えられるが、「解釈」自体は、概念化者の内部で行われる認知作業であるため、文脈設定の支えがなければ発信するという意味として捉えられにくいと言えよう。

続けて「解釈」「解釋」の構文における副詞的要素について見てみる。「悪い方に」「以不好的方式」は、物事の捉え方に関わる評価的なものである。またそのほかに

も、「解釈」「解釋」のフレームには、客観的な根拠を表すものが含まれる場合が多い。例えば、次の (11) の「日本法」、(12) の“该项法律或条款的内容”（「その法律や規定の内容」）が示すように、概念化者が解釈を行う際に何らかの客観的な根拠に基づく場合が多い。

- (11) 本規約は、日本法に準拠し、日本法によって解釈されるものとします。 (NLT)
- (12) 任何“外国”、“其他国家”等相类似的名称或词句，应解释为中华人民共和国以外的任何国家或地区，或者根据该项法律或条款的内容解释为“澳门特别行政区以外的任何地方”；……
 (人民日报 1997 年 02 月 24 日)
 (訳文：「外国」、「その他の国」などの類似的の名称や表現は、中華人民共和国以外の国や地域、またはその法律や規定の内容に基づき、「マカオ特别行政区以外の場所」と解釈される。)

一方、次の例 (13) の「勝手に解釈した」、例 (14) の「想怎么解释就怎么解释」（「思うがままに」）が示すように、概念化者が主観的な認識に基づき行う場合もある。

- (13) 「それって、本心じゃなくて、慰めてくれたんだって思いました」「それはあなたが勝手に解釈したことよね。彼が本気でそう言ったのか、あなたを慰めようとして言ったのか、ほんとのところは分からないでしょう」
 (石原加受子著『恋が長続きしない理由』2002 年)
- (14) 二是要把对员工的严格要求与对客人的最终解释统一起来，不能想怎么解释就怎么解释；……
 (人民日报 2001 年 07 月 27 日)
 (訳文：第二に、従業員に対する厳しい要求と、顧客に対する最終的な解釈を統合させることで、思うがままに解釈してはいけない。)

5・2・2 「解釈」と異なる“解釋”のフレーム

以上は、「解釈」と“解釋”のフレームに共通した部分を見た。一方、次の例 (15) の“向病人”（「患者さんに」）、例 (16) の“向儿子”（「息子に」）“向学生”（「生徒に」）が示すように、“解釋”は「説明」「说明」と同様に与格をとることができ、相手に情報を発信するという意味も表しうる。この場合、もとの概念化者が発信者になる。また、“说明”と同様に、情報を加工する認知作業がフレームの背景に潜んでおり、加工後の情報、つ

まり発信物のみを言語化する。相手に情報を発信するという意味を表す“解釋”のフレームを下図 4 に示す。

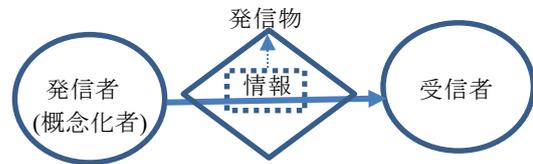


図 4 情報を発信する“解釋”のフレーム

- (15) 医护人员应针对不同情况，向病人详细解释病情和用药原则，为病人制定系统的治疗方案。
 (人民日报 1997 年 02 月 14 日)
 (訳文：医療従事者は、患者さんに病状や薬物療法の原則を詳しく説明し、状況に応じて体系的な治療計画を立てる必要があります。)
- (16) 作为父亲，不能向儿子解释 DNA；作为老师，不能向学生解释激光束，就掌握科技知识而言，还不能算完全够格的父亲和老师。
 (人民日报 1995 年 05 月 18 日)
 (訳文：息子に DNA を説明できない父親、生徒にレーザー光線を説明できない教師は、科学技術を身につけるといふ点では父親、教師としての資質を十分に備えているとは言えない。)

また、第 4 節で挙げられた“解釋误会”（「誤解を解く」）というコロケーションでは、誤解という情報を加工するというより、誤解された部分が解けるように相手に説明することを表している。

6. 結論

本稿では、日中同形動詞の「説明」「说明」「解釈」「解釋」を研究対象として、コーパス調査とフレーム意味論に基づき、この 4 語のコロケーションにおける共通点と相違点、及び構文の特徴を見た。その結果を以下に示す。

1. 〈意味・問題〉〈事象・状況・現実〉〈因果・関係〉などを表す語は、「説明」「解釈」「说明」「解釋」のいずれとも共起する。一方、この 4 語にはそれぞれ共起しやすい語があり、この 4 語の各々の特徴的な意味・構文が反映される。
2. 人間主体を主格にとる場合、「説明」「说明」のフレームは類似しているが、情報と加工後の情報（発信物）の両方を一文に取り込むことができる点においては、「説明」は「说明」と異なる。また、無生物を主格にとる場合、「説明」と「说明」はそれぞれ特徴的な構文を持ってい

コーパスに基づく日中同形動詞のコロケーション及びその構文的特徴

—「説明/解釈」「说明/解释」を例に—

る。「説明」は、{本/資料/雑誌/文章/サイト/ホームページ etc.} のような情報の担い手を主格にとるメトニミーに基づいた用法がある。以上の情報の担い手は、人間主体のように表現を換言したり情報を再構築したり再記号化したりする、いわゆる情報を加工する能動的な働きかけができず、情報をそのまま提示することにとどまり、中国語では“介绍”に対応する。一方、“说明”は、2つの事象を関連付け、2つの事象の推論的關係等を示し、〈示す・証明する・物語る〉の意味を表し得る。この場合、言語化する必要がないものの、話し手の理解や認識が“说明”のフレームの背景で活性化する。

3. 「解釈」と“解释”のフレームに共通した部分として、人間主体、すなわち概念化者が概念化者の内部で情報に対し、再構築したり再記号化したりして何らかの方法で加工するというものが含まれる。また、概念化者が「解釈」・“解释”を行う際に何らかの客観的な根拠に基づく場合があれば、概念化者の主観的な認識に基づく場合もある。一方、“解释”は「説明」「说明」と同様に与格をとることができ、相手に情報を発信するという意味も表しうる。この点においては、“解释”は「解釈」と一線を画す。

(受理 令和4年3月18日)

注

1) 厳密に言えば、「説明」と「解釈」は、「する」を伴って動詞になるが、本稿では、日中語の形を統一させるために、「説明」「解釈」という形で表記する。

2) 共起語情報を網羅的に検索できるツールとして、1億語規模のBCCWJを検索用のコーパスとするNINJAL-LWP for BCCWJもあるが、本稿では、日中両語のコーパスの規模の差を縮めるために、NINJAL-LWP for TWCを使用することにした。

3) NLT の検索結果は精度が高いものの、誤抽出や抽出基準が統一性に欠けるところがある。例えば、「説明」の上位100語として(使い・行き)方(421例)、使い方(275例)、やり方(154例)がそれぞれヒットした。したがって、本稿では検索結果をそのまま引用したのではなく、修正を加えた。

4) “说明”の用例は、説明の対象が文となる例が大多数を占めている。そのため、統計機能を使った場合、誤抽出の例が数多く混入している。調査の手間を省くために、標本調査の手法を用いて誤抽出の例の比率を概算した。例えば、最上位の共起語である“問題”の1331例に対し、そのうちの100例を1例ずつ精査し、誤抽出の比率を計

算した結果、100例中17例の誤抽出があった。83%の正確率で計算すると、1105例という結果となった。全数調査ではないため、数字には誤差があるが、その傾向が十分反映されると考えられる。

5) 3節のコーパス調査において述べたように、“说明”の対格名詞の誤抽出率が極めて高い。上位100語を選定するのに予想以上の膨大な手間がかかる上に、手作業による選別の効率もよくないため、上位50語にすることにした。

6) フレームネットの詳細は、下記のサイトを参照のこと。<https://framenet.icsi.berkeley.edu/fndrupal/>

7) 下記のア、イが示すように、説明の目的語の位置に疑問文がくると容認されやすい。対応する日本語の「説明」の文ウ、エでは、「かを」というマーカーが示すように、疑問文が名詞句として機能している。このように日中両語では疑問文は他の文と異なり、名詞句になりやすいということが示唆されている。この点については本稿の射程を超えているため、今後の課題としたい。

ア 政府向国民说明了为什么必须加税。

(例4bの再掲)

イ 老师向学生说明如何操作这台机器。

ウ 政府是なぜ増税しなければならないかを国民に説明した。(「説明」の文型bの例文再掲)

エ 先生は生徒にこの機械をどのように操作するかを説明する。(イに対応する日本語の訳文)

8) 説明の便宜上、実例の主要な成分にのみ訳文を当てる。

9) 興味深いことに、“说明”は、次のオのように、一人称の制限がある。一方、カのように、“向他”(「彼に」)のような与格を補足すれば容認度が上がる。また、キ、クの例では、与格が言語化されないものの、容認できる。

オ ??我说明了汽车保险的内容。

(訳文：私は自動車保険の内容を説明した。)

カ 我向他说明了汽车保险的内容。

(訳文：私は彼に自動車保険の内容を説明した。)

キ 推销员说明了汽车保险的内容。

(訳文：セールスマンは自動車保険の内容を説明した。)

ク 老师说明了考试的要求。

(訳文：先生は試験の要求を説明した。)

以上の言語事実は、次のような理由が考えられる。文

脈のない文の適格性を判断する際に、情報の完全性が求められ、整っている文であるほど、適格性が高いと考えられる。一人称の“我”（「私」）が主格に立つと、誰にとりという相手を示す情報が想起されにくく、その情報の補足が求められる。一方、ウ、エでは、“推销員”（「セールスマン」）“老师”（「先生」）のような職業を示す語が主格に立ち、“推销員”の相手が顧客、“老师”の相手が学生といったデフォルトのフレームが想起されやすい。この場合、与格の情報が言語化されなくても、自動的に補足されるため、容認度が高いわけである。

参考文献

- 国立国語研究所（編）（2004）『分類語彙表増補改訂版』大日本図書
- Croft, W. & D.A. Cruse(2004) *Cognitive Linguistics* p.18 Cambridge University Press.
- Fillmore, C. (1982) “Frame Semantics.” In the Linguistic Society of Korea (eds.) *Linguistics in the Morning Calm*, pp.111-137. Hanshin Publishing.
- 野村益寛（2013）「フレーム」pp. 317 辻幸夫（編）『新編認知言語学キーワード事典』研究社

辞書

- 小泉保他（編）（1989）『日本語基本動詞用法辞典』大修館書店
- 『大辞林』（第四版）三省堂 2019 年
- 『中日辞典』（第 3 版）商務印書館・小学館 2016 年
- 張淑榮(1987)『中日漢語対比辞典』ゆまに書房
- 『デジタル大辞泉』小学館
- 《現代汉语词典》（第七版）商务印书馆 2016 年

付記

本稿は2021年度科学研究費補助金（若手研究 課題番号 19K13177）による研究成果の一部である。

（受理 令和4年3月18日）